

人権教育課だより

つなぐ

平成27年1月23日
平成27年1月号(第10号)
高知県教育委員会事務局
人権教育課

12月6日 いじめ防止子どもサミットの開催

12月6日(土)、「いじめ防止子どもサミット」を開催しました。1,400名を超える、小中学生・高校生、教職員、教育関係者、保護者の皆さんが県民体育館に集い、『きづけ 心の叫びに きずけ心の温もりを』をテーマに、いじめの問題について子どもと大人と一緒に考えました。

サミット開催にあたり、ご理解ご協力いただいた、市町村(学校組合)教育委員会や各学校をはじめ、参加いただいた皆様に感謝申し上げます。また、分科会の司会進行役を快く引き受けてくれ、立派に務めてくれた高校生の皆様にも重ねて感謝申し上げます。

サミットに参加した児童生徒や大人からは、「いじめの問題について、他の学校の人と話ができて、意見が聞けたことはよかった。」「このサミットで学んだことを学校で生かしたい。」「いじめについて、改めて真剣に考えることができた。」といった感想があり、いじめの防止等に向けた機運を高めることができました。



サミットをきっかけに、いじめの防止等の取組のさらなる充実を

サミットの目的は、サミットをきっかけとして、各学校で子どもたちを主体としたいじめ防止の取組や、地域ぐるみで子どもを見守り、育てる取組等、県民総ぐるみでいじめの防止等の取組を推進することです。

例えば、サミットを通して学んだこと・発見したこと、分科会で話し合った内容(注1)を参考に、自分たちの学校や地域の実情に応じ、これまでの取組にいじめ防止の視点を関連させながら、具体的な取組にしていくことです。

ある学校では、分科会に参加した児童生徒が、自校の代表委員会で、「他校では、いじめをなくすために下級生や地域の人との交流を大切にしている。本校が取り組んでいるあいさつ運動をもとに、仲よくしようという運動を起こしたい。」と、これまでのあいさつ運動を発展させた新たな取組を提案しています。さらに、そのことを児童会だより(地域版)に記載し、地域に配布することで学校だけの取組とせず、地域の方々を巻き込んだ取組にしていこうとする、新たな動きも起こり始めています。

高知家のいじめゼロ子ども宣言

「いじめ」はいけない行為です。私たちは次の四つの「心」を大切にして、高知家から「いじめ」をなくすために行動することを宣言します。

一 相手を認め、尊重する「心」
私たちは、一人ひとりの個性を互いに認めあい、尊重する心をもちます。

一 言葉の重みが分かる「心」
私たちは、相手の気持ちを考える心を持ち、相手を傷つけるような言動はしません。

一 伝えよう、自分の素直な「心」
私たちは、一人で抱えこまず、自分の素直な心を伝えることができるようになります。

一 相手のSOに気づく「心」
私たちは、友だちが困っていたら、見て見ぬふりをせず、自ら進んで行動できる心を持ちます。

この宣言をいつも心のなかにもち続け、多くの人に広めていきます。私たちは、周りの友だちや大人をもっと頼り、周りの友だちから頼られる存在になることを目指し、お互いに助けあって生活できる高知家にしていくことをここに誓います。

また、ある学校では、全校集会で「高知家のいじめゼロ子ども宣言」を朗読し、「宣言の趣旨に沿う取組を自分たちの学校で何か取り組もう。」と呼びかけたり、他にも、子どもの宣言文を各教室の掲示板上に貼り、「友だちへのやさしい言葉かけは、宣言文の“一 言葉の重みが分かる『心』”につながる。」等、宣言文に関連した具体的な指導を行っている学校もあります。

このように、早速サミットでの学びをいじめ防止の取組に具体的に生かしている学校も多くあります。



「高知家」の子どもたちがいじめで苦しむことのない社会づくり宣言

私たち大人は、高知県のかげがえのない子どもたちが、いじめの被害者にも加害者にもならず、学校や社会で安心して生活できるよう、「高知県は、ひとつの大家族。」という思いのもと、立場や性別、年齢等にかかわらず協力し合い、いじめで苦しむことのない社会づくりに取り組むことを、高知家の子どもたちに宣言します。

- 高知家のすべての大人は、あなたの手本となるよう、自らを見つめ直し、あなたから信頼される大人になります。
- 高知家のすべての大人は、あなたの「自分や他の人を大切に」あなたから心や、「いじめは絶対に許されない」という強い心を育みます。
- 高知家のすべての大人は、普段からあなたに寄り添い、心の変化やSOSにいち早く気付くことができるよう見守ります。
- 高知家のすべての大人は、いじめられたあなたを全力で守ります。また、いじめてしまったあなたに「いじめは絶対に許されない」ことを伝え、いじめを繰り返さないよう支えます。
- 高知家のすべての大人は、あなたが私たちにとってかけがえのない存在であることを伝え続けます。

平成26年12月6日

いじめ防止子どもサミット参加者一同

「高知家」とは
高知県の一番の魅力、家族のようにあたたかい「高知県人＝人」に着目し、高知県をひとつの大きな家族に例えて、県全体で取り組むキャンペーンです。

さらには、大人の宣言文のなかの「一 高知家のすべての大人は、普段からあなたに寄り添い、心の変化やSOSにいち早く気付くことができるように見守ります。」を具体の行動に移すと、例えば、児童生徒の登下校の時間に、地域の大人が、通学路付近で子どもたちを見守る取組・活動ができるのではないかと思います。

登下校中、さえない様子の子どもの見かけたとき、地域の方々が少し声かけをすれば、その子どもは、「自分のことを気にしてくれる大人がいる。」「自分は見守られているのだ。」などと感じ、「包み込まれ感覚」(注2)が高まることで、その子をいじめの加害へと向かわせない効果も期待できると考えます。

このような取組をすでに実施している地域もあると思いますが、大人の宣言を意識することで、子どもへの関わり方も変わってくると思います。

いじめ防止子どもサミットは、子どもたちがいじめ問題等で苦しむこともなく、安全で安心して生活できる高知家をつくっていくための「きっかけ」にすぎません。今後、子どもたちのすばらしい自主性や主体性と、地域の特色や地域の方々の多彩な発想を生かし、それぞれの学校・地域でいじめの防止に向けた取組をともに進めていきましょう。



(注1)「サミット分科会協議記録(小学校)」

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/310801/files/2014082000269/bunnkakaikyougikirokusyougakkou.pdf>

「サミット分科会協議記録(中学校)」

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/310801/files/2014082000269/bunnkakaikyougikirokuchugakkou.pdf>

(注2) 包み込まれ感覚とは、自尊感情を構成する4つの感覚の一つ、「身近にいる人が自分の気持ちを分かってくれる、自分を大切にしてくれているという気持ち」

(参考「学力と自己概念」大阪大学教授 池田寛)

